

様式（第 9 条関係）

審 議 結 果

次の審議会等下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和6年度第2回益田市立学校整備計画審議会
開催日時	令和6年11月14日（木）10:00～12:00
開催場所	市民学習センター 202号室
出席者	○出席者 [審議会委員] 高橋泰道会長、品川智成副会長、 野村浩巳委員、阿部敦子委員、田中健人委員、豊田美絵委員、篠原千春委員、 村岡 宙委員、齋藤友法委員、宮内健臣委員、河上信男委員 [事務局] 教育部長 長嶺 勝良 教育総務課長 齋藤 勝義 教育総務課長補佐（学校再編整備推進室長） 植田 拓也 学校教育課長 田原 正紀 協働の人づくり推進課長 岡崎 健次
議題	1.開会 2.議題 (1)平成30年12月策定の「今後の小中学校のあり方に関する基本指針」に基づくこれまでの取組に対する中間評価 (2)上記、中間評価を踏まえた令和7年度から令和10年度までの小中学校のあり方 (3)答申案に向けて
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0名
問合せ先	教育部教育総務課 電話 0856-31-0441

審議経過

1.開会	
○挨拶	
2.議題	
(1)平成30年12月策定の「今後の小中学校のあり方に関する基本指針」に基づくこれまでの取組に対する中間評価	
事務局からの説明(資料1)	
小学校期について	
主にコミュニティスクールの状況について説明。	
委員	・コミュニティスクール未設置校に子どもが在籍しているが、コミュニティスクールがなくても地域での活動は盛んな印象がある。 ・コミュニティスクールを作ることが目的にならず、意欲のある方が自然と集まる中で設立していくのが望ましいと感じる。

	・「何もしない合宿」という取組があり、関わる大人の負担が少なく他の地域でも取り入れやすいと思う。地区で模索しながらやっていけばばらつきも薄くなるのでは。
委員	・小規模校に子どもが在籍している。オンライン交流が活発ではあるが、対面も重要と感じている。 ・小規模校なりの素晴らしい取組を積極的に発信してほしい。 ・人が変わっても継続して活動していける土台としてのコミュニティスクールは重要。
委員	・コミュニティスクール導入校に子どもが在籍している。ただ関わる大人は限定される印象があり、コミュニティスクール導入未導入に関わらず、地域で子どもをどう育てていくのかという意思統一が必要だと感じている。 ・また先生方からの意見についても吸い上げる仕組みがあればいいと思う。
会長	・コミュニティスクール導入やつろうて子育て協議会の充実など、地域で子どもを育む機運の高まり、家庭・学校・地域が連携する仕組みが次第に整いつつあることを感じる。 ・学校が地域の核としての役割を果たしながら子どもの安全、教育環境の充実に注視していくべき。地域が一体となって子どもたちの成長を支える、それが地域づくり人づくりにつながることから、今後も大事にしていきたい。 ・児童数の減少によって小規模校が増えることは今後もありえる。ICTを活用した交流学习の充実も図っていくべき。 ・つろうて子育て協議会などと協力しながら学校づくり、人づくり、地域づくりをしていくためにもコーディネーターの配置については推進していきたい。
事務局からの説明(資料2)	
中学校期について(再編実施済み地区)	
委員	・真砂地区については地域と学校の関係は良いと感じている。 ・真砂地区に滞在する時間が少ない中学生については、一緒に活動できる場を企画しようという話が出ている。
委員	・再編を実施するにあたっては、地元へのアナウンスがとても大事。
委員	・再編を経験した地区として発言すると、当時、部活動を理由に校区外通学する生徒が出てくるような状況になり、地域側が後押ししてくれた。保護者と子どもの意見を尊重しようという地域の思いがあったからこそスムーズにできたと感じている。 ・ただ、再編の課題としては、当初決めたルールが薄れていると思う。 ・持続可能な運営ができるよう仕組みを整える必要を感じる。
会長	・中学校の再編については地域社会の課題や地域・保護者の意見を尊重しながら、地域特性に応じた柔軟な再編が進んでいるのではないかと。 ・子どもたちの気持ちを尊重しながら適切な教育環境の維持と教育の質の向上を目指していくことが課題として上げられる。
事務局からの説明(資料2)	
中学校期について(再編未実施地区)	
委員	・地域振興と学校教育を同時に考えていくことは本当に難しい。 ・部活動のために校区外通学をしているが、その子自身の成長にとってみると大事だが、地域振興の面で考えるとどうなのかなと考えてしまう。
委員	・中学生は個人の活動が広がる。地域活動が物理的な部分で分断されている可能性がある。 ・ボランティアや体験学習の募集があっても時間的余裕がないために参加できないのが今の子ども

	たちなのかもしれない。 ・大学入試では体験を重視したものもあり、多様化し選択肢が多岐にわたっている現状がある。
事務局	・基本方針の中で中学生は同世代の中で社会性を身につけていくべきとあるが、実際に再編したことによって、子どもたちに社会性は身につけているかどうか伺いたい。
委員	・中学校に入ったらサッカー部に入りたいと言っていた子が実際に再編した中学校でサッカー部に入部し、生き生きとサッカーをしている。再編によって社会性を身につけながら成長していると感じている。
委員	・小学校低学年が一緒にいるため、その辺りでの配慮は必要となり、そういった面での社会性は養われているのではと感じる。
会長	・中学生は社会性を身につける非常に重要な時期であるため、総合的な学習の時間等をうまく利用して地域との関わりを増やしていく必要を感じた。 ・小学校の行事に中学生にも参加してもらうような地域の取組は続けていくべき。 ・地域に対する愛着、理解をいかに深めるかということが今後必要。 ・学校は地域の一部でもあり、地域コミュニティの拠点として将来の担い手となる人材を育成する意識も必要と感じた。 ・学校においては、産業、歴史などを持つ地域を新たに見直す機会として総合的な学習の時間を充実させていく必要がある。
(2)上記、中間評価を踏まえた令和7年度から令和10年度までの小中学校のあり方	
事務局からの説明(資料2)	
中学校期のあり方について	
委員	・集団の中で社会性を養うことは重要。加えて中学校期においては学力をつけることも大切な視点。 ・現在学校現場では対話を大切にしている。その授業スタイルを考慮する際、1クラスの人数が一桁であれば、対話を通して学力を高めるということは難しい面がある。 ・経験上、1クラス20～30人程度が授業を見るのに適していると感じる。 ・体育祭等の行事を行う上でも最低20～30人は必要なのでは。
会長	・1クラス35人よりは20人台で抑えた方がいいということか。
委員	・経験上指導はしやすいと感じる。
委員	・統合は体力を消耗する。少しずつ統合するのではなく、一気に統合してもいいのでは。 ・子どももクラス替えがある方が楽しいという意見がある。
会長	・現在の指針の中では複数クラスを確保するという指針が出ているため、今後検討する課題になると思われる。
委員	・生徒数の多い3校に再編を考えるとというのは、地域の皆さんが納得されるのか。 ・学力低下は顕著だと感じているので、1クラス20人程度の確保はぜひ続けていってほしい。
委員	・何に主題を置くべきかということだと思う。 ・問題なく自分の進路を選択していくお子さんいれば、困り感のあるお子さんは学校に来ることすらできなくなっている。それが人間関係に起因しているケースが多い。そうするとその対応に時間を取られ、地域活動などに対する時間が取れなくなっている。教員も生徒も悩んでいる一つ。 ・学力に関して言えば、個別指導やICTの活用などもある。そもそも評価基準が単なる点数だけではなくなくなっているため、広い視点で進路保障ができるところがある。
事務局からの説明(資料3)	

実施計画に示す再編の具体像に基づく各学校の状況について	
委員	・美都中学校と益田東中学校以外は、この5年間は必要ないのではないかな。
委員	・美都中学校と益田東中学校はアンケート結果も出ているが、それ以外は、まずは話し合いがあったから検討するべき。
会長	・匹見中学校についてはいかがかな。
委員	・物理的に考えても、5年どころか当分先なのでは。距離をクリアできる代替案が必要だと思う。 ・万が一市内に通学となった場合には家族全員で引っ越し選択肢も出てくるのでは。
会長	・そうなった場合、地域づくりや人づくりにも関わってくる。地域の特性上、別枠で考える必要があると感じる。
委員	・指針の中に36人以上の確保と記載があるが、ご意見にあった20～30人として計算しなおして数値が変わることがあるか。 ・小中同一校舎のメリットも勉強できた。その観点からの統合の可能性はないのかな。
事務局	・示している推計において4校については複数クラスは見込まれない。 ・一方で美都中学校については再編した場合には複数クラスになると考えられる。 ・現時点では他の同一校舎運営については考えていない。
会長	・直近5年のところでの再編の候補として美都中学校を上げることでよいか。
一同	・了承
事務局	・中西中学校についてのお考えをお聞きしたい。
会長	・中西中学校が再編するのは高津中学校になる。小野中学校の再編が終了していない段階で中西中学校をというのは難しいと感じるが、委員の皆様のご意見は。
委員	・一緒に統合がいいのかもしれないが、地域の人の気持ちが気になる。
委員	・西南中学校が中西中学校に再編した際にも、次の再編があるかもしれないという思いはあった。 ・中西中学校の中でも意見は割れると思う。ただ、学校に通うのは子どもたち。地域はそれをどれだけバックアップできるか。再編はその地域力が試されることだと思う。 ・再編後の地域のつながりは、7年経ってもあまりできていない。
会長	・そういった課題がある中で再編は難しいということか。
委員	・小野中学校の再編については、再編が地域住民に認知されていなかったことが問題になった。 ・今回検討として4校の校名が出ているが、ここについては今後再編の可能性があることを地域にアナウンスして、話し合いを促してもいいのでは。
会長	・地域の心構えとして今後の再編の可能性について周知していくことは大切。 ・その他ご意見があるか。
委員	・本当に子どもと関わっている地域とそうでない地域があまりにも違いすぎる印象がある。 ・統合はデリケートな問題ではあるが、どこでスタートするかということ。 ・地域の事情がそれぞれある中で小規模校である以上今後の話は地域やPTAの中などでも少しずつ話を出していくべき。
会長	・今回は令和10年度までについての答申ではあるが、その先についても早い段階からの議論が必要だと感じる。
(3)答申案に向けて	
事務局からの説明(資料4)	
会長	・皆様から頂いたご意見を箇条書きにしている。

	・さらに追加したいご意見等はあるか。
委員	・意見なし